

①観察

これまで以上に利用したくなるような図書館を提案するためにまずは図書館に行って観察をした。観察の方法について説明すると図書館の机はどのような机なのか、どのくらいの人数が利用しているのかという点に注目して観察した。観察の結果は図書館の机に関して言えば個人用の机と4人くらいで使える机があった。1階の机は個人用の机が多くあり、3階は正面に仕切りのある横に2人が並んで座れるような机があった。図書館の個人用の机にはコンセント、ライト、左右と正面に仕切りがついていた。以前15時頃に図書館で利用している人数を数えたところ、利用していたのは6人だった。またその日はグループで利用している人はおらず、全員一人で勉強していた。

②課題定義

実際に観察を行ってユーザーの顕在的ニーズを考えてみると、一人でいるという点から昼食も一人で食べたいという心情が想像でき、図書館を食事可能にしてほしいというニーズがあると考えた。次に顕在的ニーズから潜在的ニーズを考察してみると、人目を気にせずに自分のペースで勉強と休憩を切り替えたいという潜在的なニーズがあると考えた。顕在的ニーズ、潜在的ニーズを踏まえると、人目を気にせずに勉強と休憩を切り替えられるようにするためにはどうしたらよいかという課題が設定できる。

③プロトタイプの提案

コンセプト

人目を気にしてしまう人向けに、できる限り人と顔を合わせずに勉強と休憩ができる図書館。このコンセプトにした理由は個人での利用が多い図書館では利用する人がある程度の個人的なスペースを求めているのではないかと予想したからである。

プロダクト

机は図書館にあるようなコンセント、ライト、仕切りがついているものとし図書館の3階の本を全て二階や一階に移動し、三階は飲食可能な空間にする。具体的には図書館の3階をデジタルデバイスを利用できる空間とする。ここではデジタルデバイスによって電子書籍やオンライン資料が利用することが可能なので本そのもの

などの資料を汚すことなく資料の活用が可能になる。またできる限り個人的な空間を作るため机の脇にカーテンを取り付ける。

④期待される効果

- ・個人での利用が多い図書館に個人的なスペースを設けることで人目を気にすることがなくなる。
- ・デジタルデバイスの活用により本などの資料を直接汚す心配がなくなる。
- ・図書館での飲食が可能になるので昼食を取るために図書館外へ移動する必要がなくなる。
- ・カーテンで遮られているので勉強をしても仮眠をとっても周囲を心配する必要がない。

このような効果があるため個人的なスペースを求める学生の利用が増えると考えられ、これまで以上に利用したくなるような図書館に繋がると感じた。

図書館 3 階イメージ図



